

■釧路公立大が1部2年目で3位。東京農業大が入れ替え戦へ。第9節

第48回北海道学生選手権は第9節の10月23日、帯広畜産大グラウンドで1部の2試合を行った。1部昇格2年目の釧路公立大と15年ぶりに1部復帰の東京農業大は、釧路公立大がWR高坂駿佑（2年、滝川西高）の3TDキャッチなどで36-0と快勝。北星学園大と、地元の帯広畜産大の対戦は帯広畜産大がWR松田愉慎（4年、帯広三条高）の3TDキャッチとRB三島太呂（4年、帯広農業高）の2TDランなどで52-6と大勝した。リーグ戦の全日程を終了し、1部最終順位は①北海道大（5勝）②北海学園大（4勝1敗）③釧路公立大（3勝2敗）④帯広畜産大（2勝3敗）⑤北星学園大（1分け4敗）⑥東京農業大（1分け4敗）=5、6位は棄権試合数による=となった。最下位の東京農業大は2部の室蘭工業大と10月30日に入れ替え戦（札幌大グラウンド）を行う。

1部初顔合わせとなった対戦は、釧路公立大が第2Q9分、RB牧野幹大（3年、札幌藻岩高）の2ヤードダイブTDで先制。牧野は同11分にも6ヤードTDランを決め、試合の主導権を握った。釧路公立大は後半に入るとパス攻撃が爆発。第3Q8分にQB山口響生（2年、札幌清田高）がWR高坂へ6ヤードのTDパスを通すと、第4Q3分にはWR高坂へ19ヤードのTDパスを決めた。WR高坂は第4Q11分、1年生QB中西亮太（旭川商業高）のパスを受けて好走し、44ヤードTDキャッチも披露した。



東京農業大は前半、QB金井康晴（3年、神奈川・舞岡高）のキープや、WR戸田省吾（2年、東京・関東国際高）、WR木村拓海（1年、山形・上山明新館高）などへのパスでボールを進め、FGシフトからWR五ノ井高太（4年、福島・若松商業高）へのパスでTDを狙ったが及ばなかった。後半は釧路公立大の好守に、反撃の芽を封じられた。



釧路公立大の高木瞭HCは「2年目でここまでこられた。上級生たちのアメフトへの熱量を下級生も引き継ぎ、真面目に取り組んだのが実った」と選手たちの頑張りをたたえた。主将のWR山内翔平（4年、兵庫・三田祥雲館高）は「コロナ禍でモチベーションが落ちる中で2、3年生が頑張った。来年以降は北大と北海学園大にも勝つことを目指してほしい」と後輩に託した。東京農業大の朝倉弘之監督は「1対1のパワーとスピードで負けた。入れ替え戦は総力戦でやるしかない」と選手の踏ん張りに期待した。

北星学園大ー帯広畜産大戦は、第1Q終了間際に帯広畜産大のKも兼ねるRB三島の18ヤードFGで先制。第2QにはRB三島の20ヤードTDラン、RB堂地和寿（4年、帯広柏葉高）の1ヤードダイブ、RB三島の2本目のTDとなる6ヤードランで加点した。後半は帯広畜産大のQB外崎智文（2年、大野農業高）のパスが精度を増し、第3Q1分にWR松田へ35ヤードTDパス、同5分にもWR松田へ15ヤードTDパスを決めた。さらに第4Qには、RB石村周也（2年、札幌清田高）の7ヤードTDランに続いて、3分にWR松田へ31ヤードのTDパスを投じた。



北星学園大はQB中手龍一（3年、札幌静修高）がパスで応戦したが、帯広畜産大守備ラインの圧力に苦しみ、第3QにWR中田大翔（2年、北星学園大付属高）への16ヤードTDパスを通すのが精いっぱいだった。



帯広畜産大の栗田虎之介HCは「コロナ禍で2試合できなかったが、残り試合は下級生たちの良い経験になった。北海学園大に負け、北海道大戦で調子を上げ、今日が今季の集大成だった。QB外崎は鋭い球を投げた。まだ2年生な

ので楽しみ」と今季を総括。2 TD、1 FGのRB三島は「TDはアサイメント通りにOLが取ってくれ、走るだけだった。短大からの編入で2シーズン目だったが、最後に活躍できて良かった」と満足そうだった。未勝利に終わった北星学園大の池田伊織HCは「人数不足が大きい。コロナ禍で練習量も少なかった」と敗因を分析。前節に続いてTDキャッチのWR中田は「来年はもっと部員を増やし、頭も使ってアメフトをやりたい」と巻き返しを誓った。